

# 小湊鐵道にみるローカル線の魅力

～昭和から時の止まった世界～

56-MA S・I

はじめに、

皆さんは小湊鐵道という路線をご存じでしょうか。

それは房総半島の北部・五井駅から南部を目指して内陸部の上総中野駅までを結ぶローカル線だ。2~3両の短いディーゼルカーが、煙を吹きながら辺り一面畑や山ばかりの単線をトコトコと縦断するのである…ところまでは恐らく今回紹介する小湊線に限らず、日本全国のローカル線にも見られる特徴だ。勿論それだけでも都会暮らしで通勤電車に慣れた我々には十分新鮮に感じられるであろう。でもここでは更に一步踏み込んで、ローカル線という魅力の他に、小湊鐵道の紹介を通して過去への“タイムスリップ”という感覚を是非とも味わってもらいたい。

## 小湊鐵道とは…

まずここで、簡単に小湊線の概要を説明しておく。

小湊鐵道は 1917 年(大正 6 年)、今からおよそ 100 年前に設立され、その後幾分かの至難を経て 1925 年(大正 14 年)に開業。当初は五井～里見駅間で運行をはじめ、それから延伸を続けて最終的には 1928 年(昭和 3 年)に現在の上総中野まで開通した。なお、当初の予定ではこの路線の名ともなった小湊駅まで線路を延ばす計画であったが、予算の面や地形の都合により、一部レールの敷設が困難な区間があった為に、延伸は断念された。その後この近辺には、現在の JR 外房線が通る事になる。さて、前置きはこの辺にしておいてそろそろ本編に入ろうと思う。



上総中野駅に停車する小湊鐵道の車両(写真手前側)。奥には、同駅から JR 外房線の走る大原駅に接続するいすみ鐵道の列車が停車している。

## レトロなホーム・車両が魅力

まずは、小湊鐵道の出発地である五井駅。

すぐ隣には JR 内房線が走っており、こちらは電光掲示板のぶら下がったホームを、10 両前後の電車が発着するという我々がよく目にする“通勤電車”の光景だ。しかし、一本階段を上って隣の小湊鐵道のホームへ降りると、そこにはまるで違う光景が広がる。先ほどの JR 線のホームとは、対照的にレトロな看板のぶら下がったこじんまりしたホームに、これまた年配世代であれば懐かしく思うであろう赤とクリーム色の塗色を纏った古ぼけた旧型の気動車がポツンと停まっている。小湊鐵道と言えやはりこの車両。60 年ほど前に造られたキハ 200 系という車両は、当時の国鉄線(現:JR 線)の普通列車用の気動車を元に設計・製造された小湊オリジナルの車両だ。それから長い年月を経た現在でも、当時の容貌を保ちながらも同線の主力車両として活躍している。これからも小湊鐵道を語る上で欠かせない車両となっていくであろう。ホームの向こう側は、小湊鐵道の車庫となっており、同じく赤とクリーム色の気動車がズラリと並び。



五井駅に停車するキハ 200 系。



側面には社名や形式番号のほかに、昔ながらのサボ(行き先を表記した札)が差し込まれている。LED による電光掲示板の表記が広く一般的となった現在では、こういったアクセサリも時代をよく感じさせてくれる。

いざ列車へ乗り込むと昭和の雰囲気漂う車内が迎えてくれる。

長年使い古されて表面が凸凹になったレールの上を走る列車は常に、横揺れ・縦揺れを繰り返す乗り心地は決して良くないかもしれない。だが、それもまたローカル線の楽しみと言えるだろう。

沿線から見る列車もまた格別で、この路線ではどこでカメラを向けても良い絵になる。



こちらは木々の間を突き抜ける細道から遠方にかかる小さな踏切を渡る列車を拝んだ様子。濃い緑にお馴染みの赤とクリーム色の車体がよく映える。五井方面では畑や川などでよく明けていた沿線も内陸部に行くに連れてこのような森が多くなる。(写真は月崎駅付近にて)

## 列車の運行形態も…

このテーマで更に紹介しておきたいのが、この路線のちょっとした“見どころ”だ。そう言えばまだ紹介していなかったのが、この路線の運行形態。最近よく地方などで見かけるローカル線は、大抵は車掌の居ない運転士のみでの“ワンマン運転”であることが一般的だろう。列車に乗るとまずは、乗車駅を示す整理券を乗車口付近の発券機で受け取る。降りるときには、それを前に乗っている運転士に提示して、運賃精算箱に運賃を投入して下車する。列車内のアナウンスは大抵が録音による自動放送である。通る駅も殆どが無人駅で、何だか鉄道というよりかは、そこら辺の路線バスに近いものすら感じてしまう。かつての車掌が乗務して、肉声によるアナウンスも今や過去のものとなりつつある。だが、小湊鐵道はどうだろうか？ 駅に着くと、運賃は切符を買ってやって来た列車にはちゃんと車掌も乗務している。それだけならまだしも、車内の自動放送などは無く、すべて車掌による肉声アナウンス。加えて信号システムすら、昔ながらの方式を取り入れておりホームでは駅員も待機する。恐らくこれほどかつて賑わっていた頃のローカル線の雰囲気の色濃く残した鉄道はそんなに無いのではあろうか。更に駅や車両の設備も本物、技術が進歩してだんだんと鉄道も変化を繰り返していき中、この路線は

いい意味での“時代遅れ”なのではないだろうか？と筆者は思う。幾ら新世代に入っても、鉄道好きには手放せない様々な過去の要素を多く残してくれている。とは言えいくら古い物が今の時代まで残ったとしても、既に物である以上ガタが来始めている事も事実である。実際に乗りに行けるのも今のうちかもしかかもしれない。

おわりに、

いかがだったでしょうか。今回はだいぶ大雑把に紹介する形となったが、他にも目の付け所は沢山ある。もしも機会があれば、是非ともこの小湊鐵道を訪れて貰いたい。前述の通り我々の普段よく知る鉄道とは明らかに違うものを、そして“昭和”の面影を感じ取る事が出来るはずだ。



以上。(写真はすべて筆者撮影)